

カンボジアで圧倒的な存在感を放つイオンモール

首都プノンペンで今一番ホットなスポット

シンガポール事務所

1 カンボジアの概要

カンボジアは東南アジアのインドシナ半島に位置しており、ベトナム・タイ・ラオスとそれぞれ国境を有しています。国土面積は約18万km²と隣国ベトナムや日本の半分、タイの1/3です。東側はベトナム、西側はタイ、北側はラオスと国境を接しており、南側はタイ湾（Gulf of Thailand）となっています。国土は大半が平野であり、国土の中央をメコン川が南北に流れ、北西部の中心に巨大なトンレサップ湖を擁しており、農業が盛んな国で、国民の約64%が農業に従事しています。

公用語はクメール語ですが英語を話せる人も多く、また通貨はリエルに加えて、米ドルが一般的に流通しており、飲食店やショッピングセンターでは米ドルで支払いが可能です。カンボジアの一人あたりのGDPは2013年度で1,040ドルとなっており、タイ（5,674ドル）やベトナム（1,902ドル）と比較して低いものの、中国をはじめとする各国からの投資や、経済特区の設置などによる海外資本の誘致を促進しており、近年では7%以上の経済成長を維持しています。



メコン川沿いにはお洒落なカフェが並んでいる

2 プノンペンの街で圧倒的な存在感を放つイオンショッピングセンター

経済発展が目覚ましい中で、2014年6月にプノンペンに近代的なショッピングセンター「イオンモールプノンペン」がオープンしました。

プノンペン空港から車で約30分、中央市場に近い場所に位置しており、敷地面積は約6万8千m²、延床面積は約10万8千m²の巨大なモールとなっており、1,400台の自動車及び1,600台のバイクを停める駐車場を完備しています。現在のカンボジアの状況は20年程前のマレーシアと似ているという見方もあるほど、近代的なショッピングモール

はこれまでプノンペンにはほとんどなく、街中に出現した巨大なイオンモールは訪れる人たちに非常にインパクトを与えているようです。

プノンペンの人口は現在約 169 万人で、日本人の駐在員も約 2,000 人程ですが、イオンのオープン以降既に約 500 万人が訪れており、注目度の高さが窺えます。

カンボジアにおいては、年収が 5,000 ドル以上の、いわゆる中間層が増加しています。

これまで国内の富裕層にとって買い物をする場所が限られていたためタイやマレーシアなどの周辺国で買い物をしている人も多かったようですが、イオンモールに行けば欲しいものがほとんど手に入るため、富裕層を取り込めるチャンスとなっています。

インドネシアやベトナムでは既に大型ショッピングセンターの進出が進みつつあり、ライバル企業が出展しているため入り込むことが難しくなりつつある一方、カンボジアは市場が大きくないため競合する企業がまだ少ない状況です。このため、現段階で進出することによりインパクトは非常に大きく、ブランドとして浸透することが期待されています。



地元の人たちでにぎわうモール

3 カンボジアの人々が今求めているモノとは

現状としてプノンペンの中間層はローカルのマーケットで主に食料品等の買い物を行っており、生鮮食品はまだスーパーで買うというスタイルは定着していないようです。そのため、モール内のスーパーでの食品の販売は加工品がメインとなっています。

スーパーで販売されているトップバリュの商品は日本から直接輸入しています。またリンゴや桃、みょうがなども日本から輸入し販売しており、これらは中国産のものとは比べて価格は高いものの、品質がよいこともあり少しずつ受け入れられています。他にも 5~20 ドルの範囲の衣料品も人気となっています。

また、インテリアや造花などこれまでカンボジア国内で流通していなかったような商品の需要もあり、それらは多少値段が高くても売れる傾向があります。将来的には、更なる所得の増加に伴い、冷蔵庫やエアコンなどの家電製品が今後爆発的に売れる可能性があります。

なお、カンボジアでは消費財をほとんど国内で製造していないため、トップバリュ及び生鮮食品以外の商品は主にタイ、ベトナムから輸入しています。

4 海外展開で大切なこと

これまで様々な支援を行ってきたこともあり、感謝という対日感情を持っているカンボジア人は実際に多いようです。しかし、日本に対するイメージというものははっきりと持っているとは言い難いのが現状です。その点について韓国はイメージ戦略を上手に行っており、Kポップなどのカルチャーを輸出し、イメージ戦略を展開したうえで商品の購買に結び付けるやり方を取っています。韓国企業は企画や協賛金の提案などを積極的に行い、その国に根付いたマーケティングを行っている点で成功しているようです。

5 おわりに

過去の長きにわたる内戦の影響もあり、これまでカンボジアに対して紛争や地雷など負のイメージがあるのも否めませんが、実際プノンペンを訪れてみると想像していたよりもはるかに経済発展を遂げている様子の街並みに驚かされました。

また、イオンモールがオープンしたことによって街には更に活気がでており、日本食レストランの出店も増加しています。更に交通や電力などのインフラも整いつつあり、今後日本からの投資が加速することが期待されています。

(宮崎所長補佐 佐賀県派遣)

